

はじめに

市民憲章を基本理念とし、「新たな力とともに創る 笑顔と元気のみなとまち へきなん」を将来像に掲げた『第6次碧南市総合計画』が3年目となりました。我が国は、本格的な人口減少社会に移行し、生産年齢人口の減少と社会保障費の増大に直面しています。一方で、平均寿命に関しては世界一の長寿社会であり、「人生100年時代」を迎えています。

本市では、「人生100年時代」を見据え、健康寿命の延伸を目指した『へきなん健康づくり21プラン（第二次）』を策定し、「生涯健やかでいきいきと過ごせるまち 碧南市」を基本理念とすることで、妊娠、出産期から高齢期までの幅広い世代における市民の健康管理・健康づくりを支援しています。

中でも、昭和42年に発足しました、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護師会、保健所、各種団体、市民及び行政が一体となった『碧南市健康を守る会』による、いわゆる市民ぐるみの健康づくりへの取り組みが重要な役割を担っています。

『第6次碧南市総合計画』の基本施策10「健康・医療」におきましても、①生活習慣病の予防とライフステージに合わせた健康づくり、②地域全体で進める健康づくり、③安定した市民病院の経営基盤の確立、④市民病院における入院環境の整備、⑤新たな感染症対策を5つの柱として、市民ニーズに合った新しい健康づくり支援のための環境整備に邁進しているところでございます。

「健康は市民の宝」です。

活動的で自立した生活を楽しむため、市民の皆様一人ひとりが健康の大切さを認識し、生涯にわたり「自分の健康は自分で守る」という自覚を持っていただきたいと思います。健やかな心や体でいることができれば、力がみなぎり、何事にも前向きに取り組むことができます。市民が元気であればまち全体に元気がひろがり、活気のあるまちとなります。そのために、本市としても健康寿命の延伸を促す支援を積極的に進めてまいります。

最後に、関係機関との密な連携・協力により、本市の保健事業が実施できましたことに感謝を申し上げますとともに、本年報を今後の保健事業の参考として活用していただければ幸いです。

令和5年9月

碧南市長 禰宜田政信

緒 言

早いもので現在の碧南市保健センターが開設され今年度は41年目となります。

10年ひと昔といいますが、21世紀に入り現代社会の変化は速まる一方です。センターが開設された昭和57年（1982年）から10年を一区切りにしてみると、近年に近づくほど世情の変化の速さは増しています。

現代社会生活を維持して行くために必要な条件の一つが生産人口の維持であると考えます。超高齢化と少子化の加速を抱えるわが国では、すでに人口減少に転じているばかりか、生産人口も減少しつつあります。そのような中で、40年の間当保健センター事業も進められてまいりました。

発足当時は健康増進、疾病の早期発見と早期治療を目指し、疾病死亡の上位を占めた生活習慣病（当時の成人病）健診や悪性新生物である各種がん検診について、受診向上が盛んに叫ばれていました。そんな中、新センター2階で始まった健診事業の果たしてきた役割は多大なものであったと思います。

今回41号の刊行にあたっては、少し過去を振り返り、「碧南市保健センター年報」初期のころの内容を少し述べさせていただきます。

この「碧南市保健センター年報」の第1号は昭和57年度のセンター事業をまとめたもので、翌年夏に刊行されています。しかしこの年報、実はその3年前の昭和55年に、前年54年度の事業をまとめた内容が記され発刊されています。亡父が残していた書籍から見ると、この昭和54年度碧南市保健センターの年報を筆頭に書棚に収まっています。この年には当然現保健センターはまだ竣工前のことです。全56ページであり、表紙を見開くと1枚の表裏に目次があり、冒頭の緒言等はなく、いきなり碧南市の各年齢別人口と愛知県・全国の数値が記載された表が現れます。それによれば碧南市の昭和54年度の人口は61,653人（男性：30,838人、女性：30,815人）世帯数は15,429世帯でした。ちなみに愛知県の総人口は5,923,569人、全国では111,919,000人でした。そして、疾病による死亡原因では、1位が脳血管疾患、2位が悪性新生物、3位が心疾患で、当市におけるそのすべての人口10万対比は国や愛知県より高い数値を示していました。そして、新保健センター発足の昭和57年度の集計が第2号年報に記載されていますが、皮肉なことにこの傾向は同じでした。

それから40年を経て令和3年度の年報が昨年発刊されました。総ページ数は

187ページで、当初の3倍以上のボリュームになっており、いかにセンターの事業が増大してきたかを実感いたします。そこに記載されている令和2年9月の統計では、本市人口は72,997人（男性：37,535人、女性：35,462人）で、愛知県と全国値はそれぞれ7,542,415人、126,146,000人でした。そして疾病による死亡においてその第1位は愛知県と全国同様悪性新生物ですが、第2位は本市では心疾患、3位が脳血管疾患、4位が肺炎で、この傾向は平成22年からずっと変化していません。また悪性新生物による人口10万対比では、令和2年度では愛知県、全国より低く、脳血管疾患と心疾患では愛知県と全国値より高い数値を示しています。年によるばらつきはありますが、平成22年から令和2年度における、悪性新生物による人口10万対比の死亡数は一貫して愛知県と本市では全国値より低値を示しています。

さて、冒頭にも述べましたが現代社会における我が国の大きな課題のひとつが人口問題です。生産人口の低下を食い止める方策として海外からの移住者に頼ることも一案であり、本市の外国籍の方の総人口に占める割合は、この数十年間で随分増加しています。

5年ほど前に発刊した「碧南市の健康カルテ」において、本市の健康問題における大きな課題は、生活習慣病ならびにその予備軍が周辺他市に比べて多いこと、男性の喫煙率が高いことをあげました。

今後はわが国のみならず本市においても生産人口の減少問題がますます増大すると思われます。それに向けてより充実した子育て対策（出生数の確保も含む）と健康寿命の延伸が重要になるのではないのでしょうか。

保健センターの各種事業は、生まれてから亡くなるまで生涯すべての年代に対して関与しているといっても過言ではありません。

令和2年から世界的なパンデミックをもたらした新型コロナウイルス感染症問題も含め、今後ますますセンターに課せられた役割は増大してゆくものと考えます。その意味で関係各位の一層のご理解とご支援をお願いいたします。

末筆にはなりますが、今回の41号年報作成にあたり多大なるご支援をいただいた市健康課職員の皆さんに心より深謝申し上げます。

令和5年9月

碧南市健康を守る会 会長 山中 寛紀